

第25回総会ひらく

実行委員会

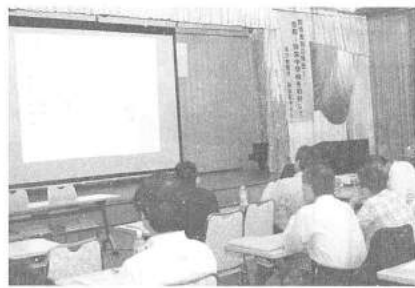
部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会第25回総会を8月8日、プラザホープでひらき各界各層より168人が参加した。

河波潤さん(関西電力)のあいさつで総会がはじまり、田上武・会長のあいさつにつづき、北山芳宏・県人権局長、平田謙二・和歌山市環境局市民部長から来賓あいさつをうけた。

基調提案を藤本哲史・事務局長、決算報告・予算案



あいさつする田上武・会長



パワーポイントを使って説明する林由紀子さん

を小川純生・JA中央会、会計監査報告を山本忠相・会計監査、2013年度役員発表を辻健二・幹事より

9月は、部落解放運動の基本的闘いでもある対市町交渉が各支部でおこなわれる。行政闘争として1950年代から差別行政、糾弾闘争と位置づけられ、部落の生活環境や仕事保障、教育保障などの要求をかがけて闘われた。和歌山県では、西川県議会議員の差別糾弾闘争をおして各部落の要求を掘り起こし、多くの成果を得た。この闘いは、和歌山県での「同和行政」の出発点でもあった。当時の部落の実態は、非常に劣悪な生活環境にあり、住宅は狭小過密であった。仕事は不安定であり、教育では、子どもたちが学

主張 部落解放運動の原点を再確認しよう!

の闘いを機に飛躍的に発展し「同和対策審議会」答申や「同和对策事業特別措置法」の制定に至るのである。以来「特別法」のもと、多くの事業が実施され一定の成果が表れてきているが、

トへの差別書き込みは、悪質・巧妙になり、相手が特定できても有効な手段がとれない。また「土地」をめぐる調査事件や問い合わせ事件があとを絶たず、部落にたいする忌避意識が露

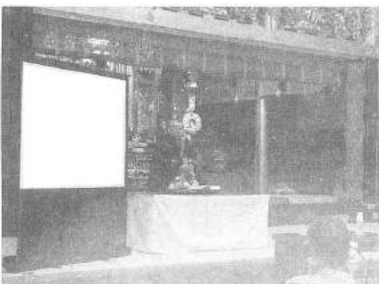
「世話役活動」をおして大衆の要求を組織し、闘いを構築すること支部活動であり解放運動の原点である。このことが、部落解放運動90年の歴史であり、伝統であることを再認識し、すべての支部で対市町交渉を積み上げよう。

校にもいけない実態におかれていた。このような実態から部落大衆の要求を組織する闘いがすすめられたのである。部落解放運動は、これら

部落差別の本質からみると、相変わらず仕事は不安定であり、教育にも格差が存在している。また、多くの差別事件が発生している状況にある。インターネット

呈している。このように、部落差別の実態をあきらかにし、対市町交渉や県交渉につなげなければならぬ。

各支部の要求を県連に結集し、県交渉に臨んでいるが、最近、支部要求すら上がってこない状況がある。運動方針にも書いてあるが、支部での「相談活動」「世話役活動」をおして大衆の要求を組織し、闘いを構築すること支部活動であり解放運動の原点である。このことが、部落解放運動90年の歴史であり、伝統であることを再認識し、すべての支部で対市町交渉を積み上げよう。



守口夜間中学校の現状を語った 尊慶典さん

子どもたちから学んだ人権

この研修

伊都地方人権尊重連絡協議会こころの研修が7月23日、あじさいホールでひらかれ企業者や宗教者、解放同盟員など約220人が参加した。

「子どもたちから学んだ人権」―弥栄中学校を取材として―と題して林由紀子・毎日新聞社から、子どもたちの出会いをつうじて、人の痛みや苦しみを知らぬことの大切さなどが語られた。最後に、子どもたちから「知らないから差別されないんじゃないやなくて、知っていても差別されない社会」の大切さを学んだとしめく

第1回 夜間中学校から学ぶ

人権啓発シリーズ講座

7月30日、和歌山人権研究所が主催する人権啓発シリーズ第1回目の講座が本願寺尊慶別院本堂でひらかれた。守口夜間中学校非常勤講師の尊慶典(はなぶさけいてん)さんから「夜間中学校から学ぶ―話したこ」との豊かさや社会権としての識字―と題したテーマで講演がおこなわれ、守口における夜間中学の現状が報告された。

狭山事件を

考えよう



狭山闘争は部落解放同盟の三大闘争の一つです。足利事件、布川事件などえん罪事件の無罪判決がつづいています。次は狭山だと思われています。しかし、その一方で、なかなか前にすすんでいないのが現状です。

石川さんが目の前にいると思おうと涙が溢れてきました。

のちに石川さんから「女性部のみなさんありがとうございました。刑務所の方は静かなので皆さんの声はよく聞こえました。とても励まされました」と聞いた時、少しでも石川さんを励ますことができてよかったなあと思いました。教育から疎外され、文字を奪われてきた石川さんの生い立ちのなかから共通する現実をみれば、狭山事件は石川さんひとりの問題ではなく、すべての部落民の問題であります。

狭山事件が1日も早く再審がはじまることと部落の完全解放をめざし、これからはみなさまとともに闘っていききたいと思っております。(北内ますみ)

文化の窓

「ジブリ熱風」7月号 特集 憲法改正

スタジオジブリが無料で発行する「熱風」には、監督ら4人の談話と寄稿が寄せられ憲法改正に反対を表明する内容が記されている。監督は、自身の生々しい子どもの頃の体験を振り返り「馬鹿なことをやった国に生まれてしまったと思って・・・(中略)・・・思いつきのよう方法で憲法を変えようなんて、もってのほか」と記されている。



詳しくは、県連・教宣部まで TEL 073-473-2301